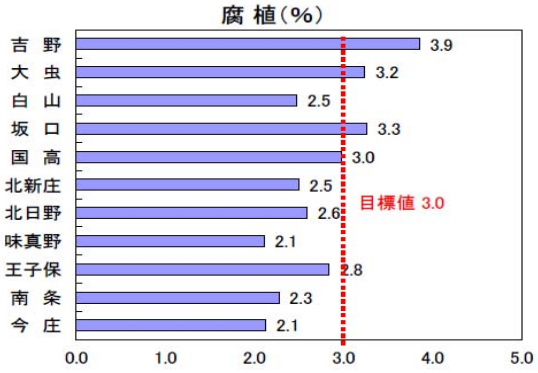
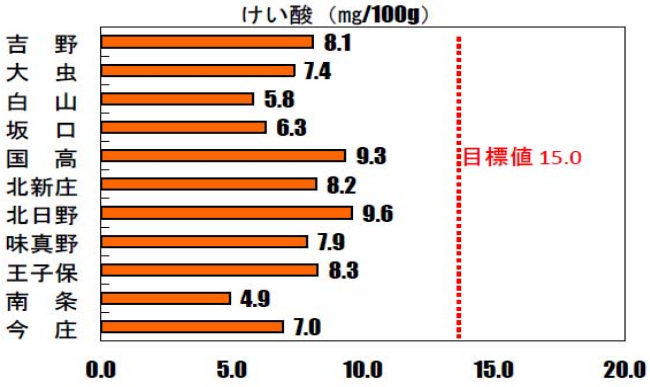
秋からの稲づくり

□「越前しきぶ姫」の品質･食味向上は土づくりから□

●土づくり

平成 28 年度の米づくりは、刈取り後から始まっています。まずは、土づくりから、近年の異常気象条件下では、① 土壌のけい酸分の減少 ② 腐植含有量の欠乏 ③ PHの低下 など、地力の低下により生育後半に稲体が活力を落とし、米の品質･食味低下に繋がっています。土づくり資材を施用し、土壌中の腐植を高めることは化学肥料の低減にもつながることから、コスト削減の有効的な対策といえます。土壌に不足している養分の補給を目的とした**けい酸資材の施用、有機物の投入、作土深の確保**などは決して省略せず、確実な土づくりを行いましょう。

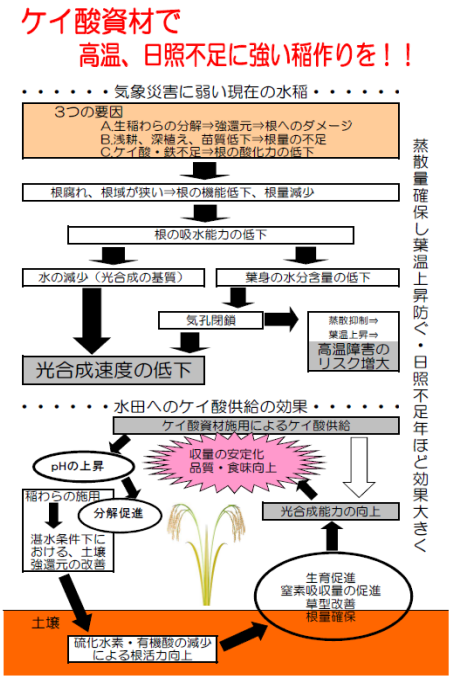


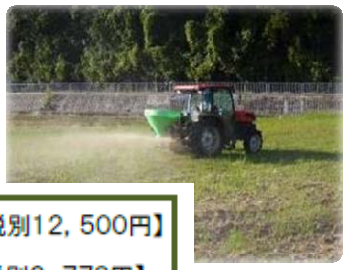


●けい酸資材の施用

けい酸は、根の酸化力を増進し、病害虫や土壌還元に伴う各種阻害要因に対して抵抗性を高める効果が**あります。**水稲は好けい酸植物といわれており、毎年継続して、けい酸資材を施用することが望ましく、特に砂質土水田や秋落ち水田等でその効果が高くなります。

管内の土壌診断を行ってみると、稲が生育するのに必要なけい酸の土壌含有量が**15.0mg/100g**であるのに対し、ほとんどの地点でこれを下回っており、この傾向は、ほぼ全域に共通しています。又、稲が生育する際、土壌の最適PHは弱酸性（PH6.0）が良いとされていますが、近年強酸性～微酸性（PH5.0～6.0）の土壌が多くなっています。





◆ 土づくり資材の無償散布について ◆

ケイカル（砂）500kg/10a	ケイカル資材代　13，500円（税込）　【税別12，500円】 購入経費助成　▲3，000円（税込）　【税別2，778円】 実質農家負担　10，500円（税込）　【税別9，722円】 自分で散布した場合、別途散布費用として 2，000円（税込）【税別1，852円】支援します。
ホワイトカリウ 100kg/10a	ホワイトカリウ資材代　9，500円（税込）【税別8，797円】 購入経費助成・　▲1，000円（税込）【税別926円】 実質農家負担　8，500円（税込）【税別7，871円】 自分で散布した場合、別途散布費用として 1，000円（税込）【税別926円】支援します。

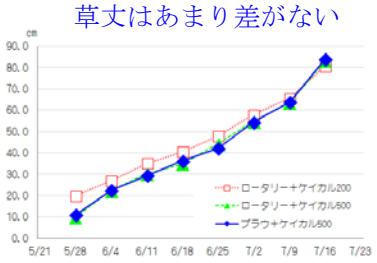
●STOP稲わら焼却　稲わらは放置せず、全量すき込みましょう！

★ 稲わらすき込み効果とポイント ★

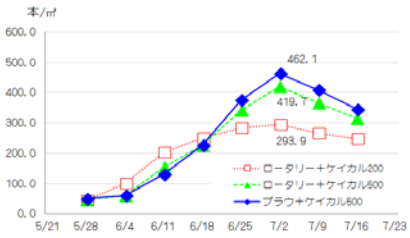
- ■ 土を柔らかくして、土が養分を抱える力が向上する。
- ■ 地力の維持増進、土壌の改善・品質向上に役立つ。
- ■ 稲わらの分解を促進するために、収穫が終わったら速やかに（気温が高いうちに）耕起を行いましょう。
- ■ 稲わらには窒素分やけい酸分が含まれますが、焼却すると稲体に利用されにくくなるので、焼かずに全量すき込みましょう。

●プラウ耕による作土深の確保を！！

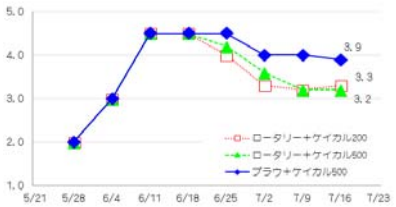
草丈はあまり差がない



茎数多い（有効茎数を確保）



幼穂形成期　葉色濃い（適正）



近年は、耕深が浅くなったり、有機物や土づくり資材の施用が減少しているうえに、基肥一括肥料の側条施肥田植えが広がっています。これらの要因が重なって、水稲の根群形成が浅くなり、貧弱となっている傾向がみられます。貧弱な根群では、大きな気象変動にも耐えられず、稲体の活力を維持できずに、籾に養分の転流（運搬）が行えなくなってしまいます。

おいしい、登熟の良い米づくり、産米の大粒化を目指すためには、収穫直前まで稲体の活力を維持する必要があり、そのため、根を十分に張らせ、健全に保つことが重要です。

★ 深耕による根域の拡大で、下層に伸びる根を増やそう ★

緊急情報　◆ 特別栽培コシヒカリ生産予定農家の皆様へ ◆

来年、特別栽培（減農薬・減化学肥料栽培など）のコシヒカリづくりを予定されている場合、前作物収穫後から使用した肥料・農薬をカウントします。前作物（今年）が水稲や大麦であった場合、既に栽培期間中としてみなされますので、圃場への除草剤散布は控えるようにしましょう。土づくり資材の選択については、化学合成窒素を含まない、ケイカルやスーパーケイサン、ようりんを施用するようにしてください。

平成 28 年産米の栽培は既に始まっています